



学校だより 7月号

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/ryokuenhigashi/>

泉区緑園五丁目28番
TEL (811) 6710

「ありがとう」を考える

副校長 山下 謙一郎

夏の日差しがまぶしく感じられる季節となりました。保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、いつも学校教育へのご理解、ご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、今月は「ありがとう」という言葉について考えてみたいと思います。昔、ある先生がクラスの子に、「ありがとうの反対の言葉は何だと思いますか？」と子どもたちに尋ねると「分からない」と答えた子が多く、いろいろと考えた末に「どういたしまして」とか、「ごめんなさい」といった答えを返してきたそうです。さて、どうなのでしょう？

「ありがとう」のもとになる「ありがたい」は、漢字だと「有難い」と書きます。字のように「あるのが難しい」ということ。つまり、めったにないこと、普通でないこと、ということ。「有難い」というのはとても貴重なことなのです。したがって、「ありがとう」の反対は「当たり前」ということになるのだそうです。

私たちは日常生活を送る中で、たくさんのご恩を当たり前として過ごしてしまっています。例えば、ご飯を食べること、布団やベッドで寝ること。他にも、自分が今生きていることや、一緒に家族がいることなど、すべてが当たり前で、特別なこととはなかなか思うことができなくなっているのではないのでしょうか。

「ありがたい」という気持ちになるには、それが当たり前でないことに気付くような出来事が起きなければなかなか気付かないものです。しかし、起きてしまってからでは取り返しのつかないことになっているかもしれません。学校や家庭で、何かをしてもらったり、いただいたりすることについてこれは当たり前のことではないんだ、と折を見て話していくことが大切だと感じます。

言葉だけ「ありがとう」というのは簡単です。「人に親切にされたら、ありがとうと言いましょう」という昔からのしつけも、その言葉自体が大切なのではなく、そこに当たり前でないという感謝の思いがないとあまり意味をなさないのかもしれません。

今年度は緑園東小学校の創立30周年のお祝いの年です。この30年の節目の年を迎えるにあたって、どれほど多くの方々に学校、児童、教職員が支えられてきたことでしょうか。児童が安全な登下校ができるように多くの方々が見守りをしてくださっています。また、毎年のように暑い運動会で、一日中校門付近でパトロールをしてくださっている方々もいます。定期的に児童に本を読んでくださっている読み聞かせボランティアの方々、花の見守りプロジェクトに協力してくださっている地域の皆様、その他数え切れないくらいの方々が、緑園東小学校に「有難い」支援をしてくださっています。30周年実行委員の児童が中心となって決めた今年度のスローガン「感謝の気持ちを未来につなごう *Let's show our gratitude*」。30年間の当たり前でない支援に「ありがとう」の気持ちを持ち、これからも緑園東小学校は歩んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

